

平成30年度
第7回倉敷みらい講座

SAKUIYO STRING ENSAMBLE

作陽弦楽合奏団演奏会

2018. 7. 19 木

18:45 開演 (18:15 開場)

入場無料 特別講義

くらしき作陽大学 聖徳殿

- J. S. Bach : ブランデンブルク協奏曲 第3番
J. S. Bach : ブランデンブルク協奏曲 第5番
B. Bartók : 弦楽のためのディヴェルティメント
O.: Respighi リュートのための古風な舞曲とアリア

指揮 江島 幹雄
フルート 森 圭吾
ヴァイオリン 長坂 拓己
チェンバロ 竹内 京子

PROFILE

指揮 江島 幹雄



くらしき作陽大学音楽学部 特任教授

東京芸術大学及び同大学院修了。ヴィオラを内田博、浅妻文樹、井上武雄、ウィリアム・プリムローズの各氏に師事。室内楽をルイ・グレーラー氏、指揮法を山田和男氏に師事する。東京都交響楽団ヴィオラ奏者として活躍の後、作陽音楽大学（現くらしき作陽大学）に赴任、この間コンチェルトのソリストや数多くの室内楽の演奏会に出演する。1982年より18年にわたる「アルシェ弦楽四重奏団」の活動をはじめ、2001年3月の国立ブルガリア室内オーケストラを共演したChr. バッハのヴィオラコンチェルトは、その卓越した技巧と豊かな音楽性により高い評価を受ける。一方、指揮者として「作陽音楽大学弦楽合奏団」、「マルチェロ室内合奏団」の常任指揮者を歴任。1984年に「倉敷ジュニア・フィルハーモニーオーケストラ」の設立に参加、以来常任指揮者及び音楽監督を務め青少年の音楽育成に情熱を傾けている。1985年、86年、中国政府の招きにより、北京中央音楽院でのオーケストラ指導のため訪中。1988年1999年には倉敷ジュニア・フィルハーモニーオーケストラを率い北京・上海・蘇州にて演奏会を開催する。また、倉敷を中心に活発な音楽活動を展開している「倉敷アカデミーアンサンブル」と共にニュージーランド公演を成功させるなど、同アンサンブルの常任指揮者として西日本を中心に精力的に演奏会を開催している。2018年3月末をもって倉敷市立短期大学学長を退任、現在、くらしき作陽大学特任教授、倉敷ジュニア・フィルハーモニーオーケストラ音楽監督、倉敷アカデミーアンサンブル常任指揮者、アンサンブル早島音楽監督。

フルート 森 圭吾



くらしき作陽大学音楽学部 専任教授

国立音楽大学・シュツットガルト音楽大学卒業。同校ソリストコースを経て札幌交響楽団入団。1984年第7回ライブチッヒ・バッハ国際音楽コンクール入選。第53回日本音楽コンクール第二位入賞（一位なし）及び加藤恕彦賞受賞。チューリッヒにて世界一の音楽教育者と称えられたアンドレ・ジョネ氏に音楽解釈法を学び、またアレキサンダー・シュナイダーの指揮でブランデンブルク協奏曲のソリストを務めた。札幌交響楽団首席フルート奏者を30年務めた後、くらしき作陽大学で学生の育成はもとより近年は同大学音楽学部オーケストラを率いる指揮者としても活躍している。

ヴァイオリン 長坂 拓己

くらしき作陽大学音楽学部 特別非常勤講師

島根県出身。これまでに加納佑春、芦原充、森悠子、アナスタシア・チェヴォタリョワ、トカレワ・ナデーユダ、ケメルマン・ディアナ、ファルバイ・アッティラの各氏に師事。くらしき作陽大学モスクワ音楽院特別演奏コースを修了の後ハンガリー国立リストフェレンツ音楽院にて研鑽を積む。これまでに飯森範親指揮くらしき作陽大学管弦楽団、岡山フィルハーモニック管弦楽団、ドナウ交響楽団他、多数のオーケストラのソリストとして共演。現在、岡山フィルハーモニック管弦楽団団員、くらしき作陽大学非常勤講師



チェンバロ 竹内 京子

くらしき作陽大学音楽学部長、同大学院音楽研究科長 教授



東京芸術大学附属音楽高等学校、同大学音楽学部卒業後、同大学院音楽研究科を修了。ウィーンのベーゼンドルファーザール、ケルンのWDR放送局において、ヴァイオリニストの夫 竹内民男氏とデュオアーベントを開催。オーケストラ・アンサンブル金沢の首席チェリスト ルドヴィート・カンタ氏を招いたピアノトリオのライブ録音、ショパン作曲ピアノソナタ第3番を含むCD『音想』をリリースするなど、ソロや室内楽の分野で活躍。また、各地でピアノ指導者講座講師やピアノコンクール審査員を務める。現在、くらしき作陽大学音楽学部長、同大学院音楽研究科長、教授。